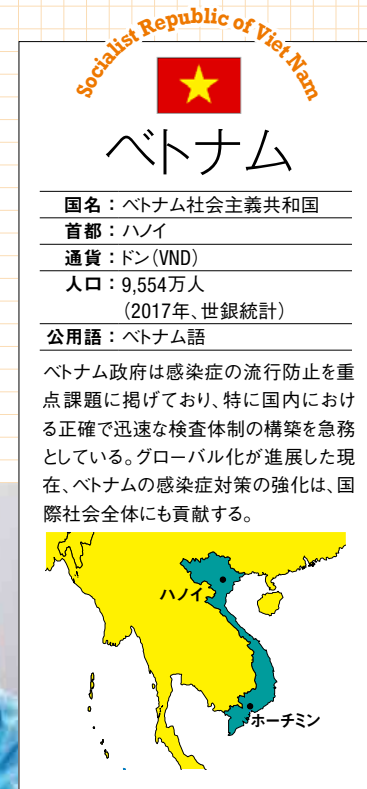


早期発見を支える 検査体制

感染症の発生を察知し、拡大を阻止するために重要なのは、迅速な検査体制。日本は設備と技術の両面からの支援を行っている。

検査能力向上で 感染症の蔓延を阻止！

さまざまな感染症の脅威にさらされてきたベトナム。日本は、対策の核となる検査室の能力強化とネットワークの構築に10余年にわたって支援を続けている。



狂犬病検査の研修の様子。

迅速な検査が流行を防ぐ

2002年11月、中国・広東省で原因不明の呼吸器疾患が報告された。SARS（重症急性呼吸器症候群）と名づけられたこの新型肺炎は、ほどなくして国を越え感染が拡大。東アジアを中心に猛威を振るい、約9か月間にわたって8096人が感染し、774人が死亡したとされる。また04年には、鳥インフルエンザも東南アジア全域で発生した。感染例は多くなかったものの死亡率が60〜70パーセントときわめて強い毒性を持ち、世界で最も多くの感染者が出たベトナムでは40人近い人が亡くなった。

これら感染症の脅威にさらされてきたベトナムは、06年から国を挙げて感染症の流行防止体制の構築を始めた。協力を要請されたJICAはソフトとハードの両面での支援を続けてきた。これまでハノイの国立衛生疫学研究所（NIHE）へのバイオセーフティレベル3（レベル3）検査室の設置および、ホーチミン・パスツール研究所（PIHCC）への、レベル3のモバイル検査室（移動式検査車両）の設置、そして病原体の検査能力の向上を図る技術協力を行った。これにより、以前は国外の高度検査機関に頼っていた危険度の高い病原体の検査を国

内で行えるようになり、事実14年のはしかの流行時には、技術力の向上した検査員の活躍が、流行の早期終結に寄与したという。またNIHEとPIHCCを中心に地方の予防医療センターとネットワークを構築し、病原体の検査における検体の輸送などが一定のルールに従って行われるようになり、素早かつ確かな検査対応が可能になった。

検査室の検査能力の向上が感染症の防止につながる理由を、「感染症の予防・対応能力向上のための実験室の機能及び連携強化プロジェクト」のチーフアドバイザーを務める甲斐雅規さんは次のように解説する。「多くの感染症では、感染源になる患者を早期にそして的確に検知し、本人や、また場合によっては接触者を迅速に治療するといった対応が最も重要です」。だがベトナムは特に地方部において問題があるという。「NIHEのような大きい研究所や研修を実施できた一部の地域では、06年からの、プロジェクトのフェーズ1、フェーズ2の成果もあって素早く診断できる能力がついてきました。しかし、日本の地方衛生研究所にあたる、省ごとの予防医療センターの検査室にはまだまだ技術が足りないところが多く、流行予防に必要な水際の検査が素早く行えていません。なので、まずは予防

医療センターに必要な機材を支援して、重要な病原体についてはきちんと検査ができるように、分子生物学的な新しい病原体の検出方法を学んでもらうなど、人の面での協力も進めていきます」。

病原体を適切に管理する

プロジェクトでもっとも力を入れていることのひとつが、病原体から自分の身を守るとともに、病原体を検査室の外に漏らさないための「バイオセーフティ」とよばれる対策だという。手袋やマスク、ガウンの着用や、実験室内で飲食を行わないこと、入退出時の滅菌や消毒などの手順を徹底するといった安全管理を伝えている。年に1度、日本で行っている研修でも、バイオセーフティについては重点的に講義が行われている。「現在、PIHCCにはモバイルではない、NIHE並みのレベル3の検査室を新設する計画があるため、検査員たちに日本での状況をしっかりと学んでもらう必要があります。たとえば検査室に設置する機材を作っている会社を視察して原理を一から学んでもらうなど、ベトナムでは学べないような研修をしています」。参加者は、日本の施設で整理整頓が行き届いていることや、日本の検査員たちが施設内のルールを忠実に守っていることに、大いに感心していたという。

病原体を漏らさない検査室

微生物や病原体等を取り扱う施設にはバイオセーフティレベルと呼ばれる基準が存在する。1〜4のレベルごとに高性能フィルターやインターロック式ドアの設置などの要件が設定されており、数字が大きいほどリスクの高い病原体などを扱うことができる。ベトナムでは日本の協力で導入したレベル3の検査室により、狂犬病や鳥インフルエンザ、多剤耐性結核菌など、「高危険度病原体」と呼ばれる病原体を扱うことができるようになった。



長期的には、プロジェクトの終了後もベトナムの人々自らが継続して感染症への対応ができるような体制を築いてゆきたいと甲斐さんは話す。「NIHEのバイオセーフティの能力は、プロジェクトの開始当初より確実に向上し、病原体の検査件数も着実に増えていきます。日々新しくなっていく病原体検査の手法をマニュアル化するなど、研修の内容にも磨きをかけ、検査能力の向上を通じてベトナムの感染症対策に貢献していきたいと思っています」。